民進党代表選挙

9月6日 高松三越前

9月15日、岡田代表の任期満了に伴い、代表選挙が行われ新代表に蓮舫さんが選ばれました。

多難な船出になるかも知れませんが、初の女性代表となった蓮舫さんには、清新なイメージで新しい民進党を作っていって頂きたいと思います。我々党所属議員も一丸となってそれを支え、いつ衆議院が解散されたとしてもしっかりと巨大与党と対峙して参る決意です。

もちろんこれからも厳しい道程が続くことは覚悟の上です。しかしその全ての試練を乗り越えて、国家国民のために役立つ政治を目指し、精進いたします。

どうぞご指導ご鞭撻のほど心よりお願い申し上げます。

代表選に出馬された前原さん、自らの様々な失敗と民主党政権への失望を正面から謝罪した姿勢を私は高く評価しています。改憲や安保の持論も封印し、リベラルな社会政策にシフトしたニュー前原。これからも尊敬し、信頼する先輩として、期待したいと思います。

お隣香川2区の玉木さん、当選3回、西日本で唯一、選挙区当選を守り続け、国会でも予算委員会始め活躍している玉木さんの出馬は、私にとっても大きな刺激です。心からエールを送ります。同郷の同士として、またときに切磋琢磨するライバルとして、これからも互いに郷土と日本のために磨き合いたいと思います。

臨時党大会

民進党

国会論戦

総務委員会

総務委員会

衆議院総務委員会では中核市制度の強化、高松での情報通信大臣会合などに加え、高市総務大臣の放送局に対する圧力ともとられかねない「停波発言」についても問いただしました。閣僚や与党議員の相次ぐ失言の中に、政権の緩みや奢りが見え隠れしています。やはり政治に健全な緊張感を回復しなければなりません。

予算委員会分科会

四国新幹線実現に向けての質問、そして、高松市屋島水族館存続と諸規制について質問させていただきました。

また、高松市民の皆さまや関係各所の長年の要望により、試験的にではありますが、10月～12月の間、屋島ドライブウェイの無料化が実現しました。

地元活動

地元神社での神事参加

四国遍路を世界遺産に 国際シンポジウム

丸亀町での防災イベント

春季芸術祭、土庄港でコシノジュンコさんと

瀬戸内国際芸術祭夏会期開幕

熊本地震募金活動

小豆島野球教室

十河まつりにて地元の子供たちと

参議院選挙

参議院選挙直前には安倍総理が消費税の引き上げを再び見送り、社会保障や財政再建に暗雲が立ちこめることになりました。年金運用では5兆円の損失を出し、アベノミクスの限界と弊害も明らかです。全てを政局の人質にとってきた貧しい政治。今後は一に政治家の身を切る改革。二に新たな社会像の提示。三に納税に伴う国民の具体的な受益。これらをセットで議論して、本格的に税と社会のあり方を野党の側が提案していかなければなりません。

今参議院選挙では全国32の1人区で野党が候補者一本に絞りました。3年前の参院選では2勝29敗でしたが、今回は11勝21敗と二定の成果を上げたと言えます。与党が何年も前からやってきたことに、ようやく野党が追い付きました。この歴史的な動きの背景には安保法制や改憲への危機感があります。今回の参院選をきっかけに、この流れを確固たるものにしていかなければなりません。

徳島・高知、大西候補応援

香川では苦渋の決断で民進党候補が撤退し、野党候補は唯一共産党になりました。香川の有権者の皆さまには本当に申し訳なく思います。しかし、どこかが譲らなければ野党の共闘は進みません。今後、共産党とどのような距離感で取り組むか、本当に難しい課題です。共産党は12年前の綱領改訂で、資本主義の枠内での民主的改革、私有財産制、天皇制など現行憲法の堅持、一党独裁の否定と選挙による政権交代制など、極めて現実的な主張を唱える政党に変わりました。あとは安全保障政策について一定の変化が確認出来れば、かなりイメージは変わってきます。

高松三越前、野党4党合同街頭演説

愛媛、永江候補応援

参院選「自公勝利」改憲勢力は3分の2！

自公は互いに主張が強くなってくる

認し、共産党本来の主張である日米安保の廃棄や自衛隊の解消に踏み込まない、との内容だ。政策協定を結んだ選挙区はあるが、国家の根幹に関わるところまで言及したのは香川だけ。小川氏は本部からの反対を押し切りこの文書を作った。

この小川氏の姿勢に共産党側も歩み寄った。選挙ポスターや街宣車から同党のシンボルカラーである赤をはずし、民進党の色「青」に変えた。日本共産党という党名連呼を自粛した。

小川氏からすれば、最後の関門は「共産党」という党名である。応援に来た志位和夫委員長にも「党名変更を視野に入れてください」と要請した。「一字だけでずいぶん変わる。共生社会という理念から日本共（生）党になるではないか」

小川ビジョンは続く。「次期衆院選には200ぐらいの選挙区で共産党に降りてもらい、逆に共産党が

民進・共産共闘はむしろ自公に学べ

共産党も入るその連立政権でどういう政治をする？「少子高齢化、貧困化、広がる格差……。暴走するグローバル資本主義の中で、今ほど適正な再配分政策が必要な時はない。それが中道政治勢力のやるべきこと。日本はその矛盾の最先端にいる。解決の道を示せたら、世界にも役立つと」

若干先を行き過ぎたかもしれない。共産党アレルギーがすぐに解消するとは思えないし、民進党が共闘体制を参院選後も継続するかどうかもわからない。共産党の党名変更となるとさらに予測できるものではない。

小川氏もすべてを楽観してはいない。今回の共闘だけで「苦情の嵐だった。批判もすごい。文字通り命懸けでやってきた」からだ。

「成果はすぐには出てこないだろう。何年か後にあそこで始まったのか、という形で理解されることなのかもしれない」という。

ここからは私の観測だ。共産党は野党共闘路線を衆院選に向けさらに強化してくるだろう。それは、あたかも1990年の米ソ冷戦崩壊後に公明党が安保政策の現実化と連立政権入りに大きく舵を切ったのと似ている。

野党第一党の民進党はどうか。これもまた共産党との共闘の流れは消えない、どこか加速する、と私は見ている。党執行部を誰が担うにしても、である。

理由は二つ。日本のような老成国に対し、金融緩和による成長主義と軍事強化路線しか示せない安倍政治に対し、低成長を前提とした再分配政策と外交協調路線を中心にした対抗軸が出てくるのは政治的必然であり、かつ大義だと思うからだ。

もう一つは、もっと下世話なことである。今回もその威力を見せた共産組織票を簡単に捨てられるか、という問題である。結論から言えばそれは無理である。民進党では保守系とも言われる議員がしみじみ言っていた。「私ですらその誘惑を断ち切れない。他の衆院議員たちはすでにその票を加算して次の自分たちの選挙を考えている」という。

1選挙区で平均2万近い組織票。これが民進候補を応援するとどうなるか。例えば前回2014年衆院選東京の25小選挙区（自民22、民主、公明、みんな各1）でいえば、9選挙区が自民から民進にひっくり返る。これが全国で動くわけである。

今からが民進、共産両党の本当の共闘の始まりになる。衆院選では「野合」は許されない。小川氏がトライしたような政策協定が中央レベルで必要になる。国の基本政策、つまり、外交・安保政策、経済・財政政策で大枠でのすり合わせが求められる。果たして両党にその覚悟と知恵があるかどうか。この点ではむしろ自公に学んでもいい。彼らは長い時間をかけて寧に連立を維持管理してきた。

以上、天の声に耳を澄ませ、私なりに今後の課題をまとめてみた。改めて思うのは選挙というものの大切さ、その面白さである。

参院選「自公勝利」改憲勢力は3分の2！

改憲勢力が3分の2を超えた選挙結果から見えてくる展望とは何か。アベノミクスの成果は国民に認められたのか。改憲はどう進んでいくのか。共産党と民進党は野党協力を深められるのか。「サンデー時評」倉重篤郎が、与野党ともに待ち受ける困難な未来を予測する。

番外編 サンデー時評 倉重篤郎

前段省略

野党共闘についても論評する。香川県のケースを見てみたい32の1人区のうち唯一共産党候補が降りなかった（他の野党が候補を出さなかった）選挙区である。

民進党香川県連代表の小川淳也衆院議員（45）に聞いてみた。

小川氏は当選4回。2年前に『日本改革原案 2050年 成熟国家への道』と題する著作を世に問うたことをこの欄で紹介した人物である。田中角栄の『日本列島改造論』、小沢一郎の『日本改造計画』を意識した大局的な国家改造案であった。日本という国家が人間の肉体でいえば青年期にあたっていた田中角、成人期にさしかかっていた小沢本と差別化し、少子高齢化に人口減が加わる老成期とでもいうべき国家において、その中長期的な国難克服策を練った野心作だった。

彼もまた今回の共産党の変化を歴史的必然と見ている。

野党連合はこれからが苦闘の始まり

「我々民進党もよその政党のことは言えないが、共産党の自己変革をアシストする気持ちだった」

共闘に当たっては、両党県幹部レベルで「基本的事項の確認書」なるものを交わした。04年共産党綱領に沿い資本主義、天皇制を容認し、党名を日本共産党に変えた。東西冷戦が崩壊して30年近くたち、欧州共産党がほとんど中道政党化していった流れがようやく日本にも訪れた、との見立てだった。だから彼は今回の野党共闘を積極的に受け入れた。

与野党ともに“茨の道”。

7月24日号「サンデー毎日」

与野党ともに“修羅場”が待ち受ける！

参議院選挙について誌面で取り上げていただきました。